平成30年度

阿南市立岩脇小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

①「自分の考えを進んで説明しようとする表現力の育成」
②「学習の流れがわかる板書とノート指導の取り組み」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
日下　真子	教務主任　：　久米田　美和子 1学年担任　：　折野　美穂 特別支援コーディネーター　：　久米田　芳江 4学年担任　：　豊田　理絵 5学年担任　：　橋本　幸典

校長

立岩　一彰　　印

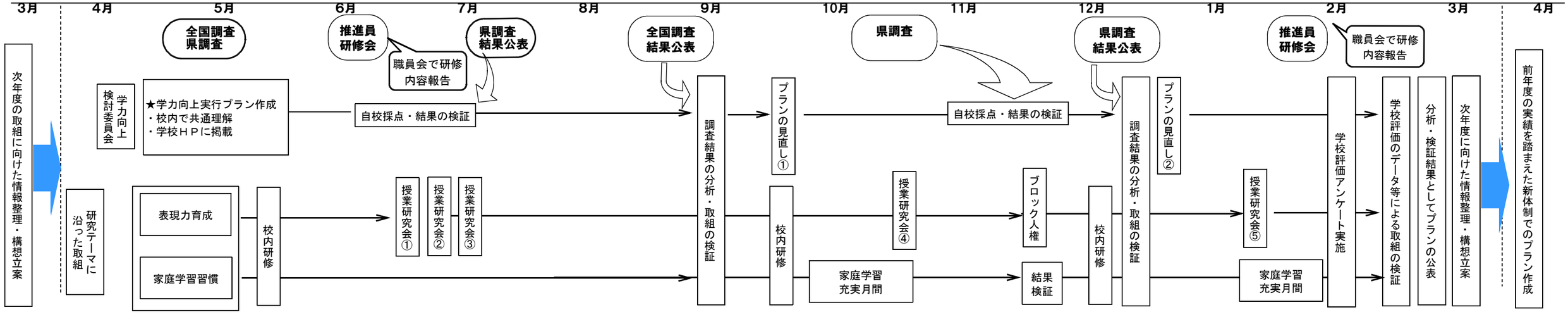
（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得

	児童生徒の状況	具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	漢字の読み書きや数計算の力は，おおむね身についている。	基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ，それらを日常生活の中で進んで活用できる。	読み・書き・計算の基本的な確認テストで正答率90%以上を目指す。	・読む力を育むため，各学年のおすすめの本リストを作成する。高学年は，新聞ワークシートを活用する。	条件作文やNIEへの取り組み・体験活動・ICTの活用などを中心に取り組むことができた。	書く活動を重視した取り組みにより，書くことへの抵抗が減り，条件に合わせた作文が書けるようになってきた。。
課題	課題の条件に合わせて情報を選択したり，書いたりすることに抵抗感のある児童が見られ，語彙も少ない。また，言語事項の理解では，個人差が大きい。 図形や量と測定の領域を苦手とする児童が多い。	**具体的方策（教員の取組）** ①朝の活動時に漢字・計算のドリル学習や確認テストを行う。また，授業で不十分だった問題などの反復学習を行う。 ②課題や条件に合わせて適切に表現する力を育成する。 ③体験活動やICTの活用により，量的な実感が得られるような授業の工夫をする。	**取組指標** ①週一回は漢字または計算の確認テストを行う。 ②朝の活動を各学年で計画的に活用し，「ミニ作文」「条件作文」「鳴潮書き写し」「新聞感想文」「きくきくドリル」等に取り組む。		**評価** A	**次年度における改善事項** ①作文や新聞感想文の取り組みにより，書くことに抵抗を感じる児童が減少してきたが，語彙が豊富な児童とそうでない児童の二極化が感じられる。 ②例文や友だちの書いている文章をまねて書いたり，条件に合わせて書いたりする力がついてきたが，有用な情報を選択し分析したり考察したりする力に乏しい。 ③書くことに偏らず，音読や暗唱等の時間を確保し，美しく正しい日本語に触れさせる機会をつくる。

（２）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

	児童生徒の状況	具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	筋道を立てて考え，理由を付け加えながら発表できる児童が増えてきている。また，方法や手順が分かる学習には，真面目に集中して取り組むことができる。	課題や目的に応じて筋道を立てて考え，理由や根拠を明らかにして，進んで自分の考えを説明することができる。「課題」に対する「ふり返り・まとめ」を自分の言葉で表現することができる。	「自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることが楽しい（得意）」の割合を80%以上にする。	・高学年は，新聞の要約やおすすめの本の紹介等の活動を取り入れる。 ・授業の最後の「まとめ」の時間をできるだけ確保し，充実させる。	ペアトークやグループ討論を積極的に取り入れた授業を行うことができた。また，スピーチや全員が発表できる機会を多く設定し，自分の考えや意見を友だちに伝えることができるようにした。	友だちの前で話す機会を多く設けることで自分の考えを表現することへの意欲は高まってきたが，友だちの意見を聞いたうえで自分の考えを高めたり，グループ全体の意見を練り上げたりするまでには至っていない。
課題	課題や目的に応じて聞き取ることや，友達の意見を聞いて自分の考えを広げたりまとめたり比べたりする力に課題がある。また，自分の考えをもっていても進んで表現しようとする積極性に欠ける。	**具体的方策（教員の取組）** ①教材や発問を工夫し，筋道を立てて考えたり書いたりできるように指導する。（発表の仕方を具体的に示す。） ②各学年の発達段階に合わせて，NIEの活動に取り組む。 ③授業力向上チェックシートで定期的に自己の授業を振り返り，授業力向上に役立てる。 ④板書の構造化（「めあて」「思考」「まとめ」が分かる）を図り，板書と一体化したノート指導に努める。	**取組指標** ①ペアトークやグループ討論，ディベート，ホワイトボードミーティング，ICT等を1日に一回は取り入れる。 ②計画的にNIEの実践に取り組む。 ③年に2回は，チェックシートによる振り返りを行い，授業力向上に努める。 ④めあて・思考・まとめをノートに書かせる。		**評価** B	**次年度における改善事項** ①発表が苦手な児童への手立てとして，発表の型や使って欲しい具体的な言葉を提示し自信をもって発表できるようにする。 ②引き続きNIEの活動を行い，新聞の要約やおすすめの記事の紹介を通して考える力を伸ばす。 ③「授業の終盤のまとめ」や「単元の終わりのまとめ」の時間を確保し,個々の能力に応じた学習の「まとめ」ができるようにしていく。 ④グループでの話し合い活動では，友だちの意見を真剣に聞き，自分の考えとの違いに気がついたり自分の意見を高めたりすることのできる児童の育成をめざす。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

	児童生徒の状況	具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	家庭学習の習慣や基本的生活習慣は，ほぼ定着している。与えられた課題については，最後まで根気強く取り組む。	家庭学習でも苦手な課題に根気強く取り組むことができる。家庭でも進んで読書をする。「岩小っ子授業のルール5つのやくそく」を守ることができる。	家庭学習の実施率を各クラスで100%を目指す。一人ひとりの読書時間を増やす。	・自主学習ノートの成果を可視化できるよう工夫していく。 ・高学年による新聞読み聞かせの活動を取り入れる。	学校での読書時間の確保により，一人一人の読書習慣が身についてきた。また，6年生から1年生への新聞読み聞かせの活動により，相手に聞いて楽しんでもらう態度の育成につながった。	与えられた課題や自主勉強には，根気強く取り組めていた。学校での読書には落ち着いて取り組み読書量が増えてきたが，家庭での読書時間は増えなかった。
課題	自分から進んで課題を見つけて，学習に取り組むことが苦手である。また，家庭での読書の時間が少ない。	**具体的方策（教員の取組）** ①3年生以上では，自主学習ノートを持たせ，進んで自主学習に取り組むよう手立てを工夫する。（シール・色別ノート・コンクール・リレー式など） ②読書時間の確保（週一回20分以上）を徹底する。 ③各学年読み聞かせを積極的に取り入れる。高学年が低学年に読み聞かせを行う機会をつくる。	**取組指標** ①自主学習ノートの達成冊数や内容の素晴らしいものを積極的に紹介し，一人年間1冊以上を目指す。 ②図書委員会の読書優良児童（低100冊，中50冊，高20冊以上）の表彰の割合を各学年50%以上にする。 ③下学年では，週一回読み聞かせを行う。		**評価** A	**次年度における改善事項** ①自主学習ノートの取り組みに成果が見られた反面，しっかりと自主学習ノートが書ける児童と何をどう書けばよいのかが分からない児童の差が激しい。内容の充実した自主学習ノートの紹介をして，ノートの書き方を身につけさせていく必要がある。 ②読書活動についても，学校での読書習慣がつきつつあるが，読書量については二極化が進んでいる。担任や図書館サポーター・高学年による読み聞かせを充実させ，本に触れる機会をつくる。 ③家庭での読書時間を増やすために，積極的に読書活動を推進していくようにする。

平成30年度　学力向上ロードマップ